

単位制高校における現代文Aの授業実践 ～言語文化を通して～

鹿児島県立開陽高等学校全日制課程

近藤 美希

I はじめに

(1) 在籍校について

本校は、平成12年4月に、定時制課程と通信制課程を設置する、県内唯一の単位制高等学校として鹿児島市下伊敷に開校した。さらに、平成15年には全日制課程（普通科120人・福祉科40人）も設置され、三課程を備えた今までにない枠組みの高等学校として、谷山の農業試験場跡の一部に位置する新校舎で新たなスタートを切った。「光と風と森のある学校」という校舎のコンセプトの下、外観はガラス張りのモダンな校舎である。内部は木材を多用したぬくもりある大小の講義教室や自習室を備えた円形図書館、ニーズに応じたバリアフリー施設、多用性を踏まえたエレベーターの設置など、多岐に及ぶ工夫が施されている。校訓「夢・実現」は、生徒に気宇壮大で大志を抱き大地に踏み張って颯爽と立つ人間として、潔白で純粋たる生き方をしてほしいという願いを込めたものである。本校の一番の特色は、「単位制である」ことであり、高等学校に3年以上在籍して、決められた単位を修得すれば卒業が認められる。また、前期・後期の二期制であり、半期完結の講座や通年の講座がある。

単位制は、学年の区分がないため、本校では、高校1学年を入学年次、2学年を中間年次、3学年を卒業年次としている。また、入学年次は普通科5クラス、福祉科1クラスで編成し、SHRやLHRを実施している。しかし、卒業年次では、普通科は4クラスに減少する。理由は、中間年次までは単位修得の状況に関係なく進級できるが、卒年次への進級は、一年後に卒業条件を満たせる者のみとなるからだ。それは、登校できず出席日数の不足による単位不認定となる生徒が、毎年1クラス分残留や転学、退学となるのが実態であるからだ。

カリキュラムは10科目366講座が開講されている。1コマ90分授業で1単位となり、多くの講座が一期2単位、1コマ90分週2回で実施されている。また、個に応じた学習指導を目指し、どの講座も30名を超えることはない。生徒は1日3～4コマ、1週間15～18コマの時間割を各自の進路に合わせて作成している。

時間割は、自分の希望する進路や学力、興味、関心等に応じて教科・科目、さらに習熟度を選択し、自分で受講計画を作るシステムである。基本的に、必修修科目については、入学年次に履修し、それ以外の科目は、比較的自由に講座を選択できる。国語・数学・外国語は、入門・基礎・発展といった習熟度別の講座があり、生徒たちは、自分の実力や進路に応じた授業の選択ができる。それぞれの履修状況に応じて、多くは年次入り交じっての授業となる。

また、同一校舎に帰属するものの、全日、定時、通信のそれぞれの課程が独立しており、課程変更は入学試験を受検することになる。

(2) 生徒の現状について

本校は、入学者選抜学力検査の他、本校独自の3回の入学試験制度があり、小・中学校で不登校であった生徒や他校で何らかの問題を抱え転校してきた生徒も受け入れている。そのため、全教職員で生徒の情報を共有することが重要となる。

国語においては、入学年次に、必修修である国語総合を修得し、中間年次に、主に就職希望者

は現代文A、大学進学希望者は現代文B、古典Bのいずれかを選択する。また、卒業年次には、主に就職希望者は、国語表現やステップアップ国語（学校設定科目）を、大学進学希望者では、センター受験者は、現代文探究Aと古典探究A（いずれも学校設定科目）を、短大・専門学校希望者は、現代文探究Bを選択する。

転編入学の生徒は、大学進学を目指す生徒も多く、発展の講座を選ぶ割合が高いが、単位を持たない新入学の生徒は、入門・基礎の講座を選択する傾向がある。

言語活動を通して生徒の理解を深める授業を展開するためには、読む能力の到達度にバラツキのある生徒たちが、小中学校で育成すべき能力が十分に付いていない生徒がいる中で、高校で育成すべき能力を身に付けさせる授業を実施するために、教員側の様々な仕掛けや準備が必要となる。しかし、毎日90分の3コマが基本の時間割であるので、50分の7コマと違い、1コマの中では、十分に指導できたつもりでも、やはり継続した学習の重要性を実感する日々である。

今回の実践では、就職希望者の多い、中間年次と卒業年次の生徒たち27名のクラスでの実践である。やはり、各年次で温度差があり、授業最初に行う漢字テストに対する取り組みや課題提出にも差が見られる。しかし、4社の新聞コラムを毎時間読んで、感想を書くことで、少しずつ言葉に対する関心が強まりつつある。言語活動に関しては、精神的に弱さを抱えた生徒も多く、個に応じた対応が求められる状況にある。

II 実践のねらい

(1) 単元について

本実践のねらいは、中間年次（高校2年生）1学期における「現代文A」の学習において、東西の昔話の内容から、文化を比較し、我が国の言語文化に対する理解を深めることである。本単元では、現代文の教材において、「文章を読んで、言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること」を目標とし、生徒にとって身近な昔話を読み比べさせる授業の実践を試みた。そうすることで、主体的に文章を読み、言語文化に関する課題を自ら設定して探究することで、国語の向上を図る態度を育成したい。

現代文Aの目標である「近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。」の前半部分を東西の昔話を読み比べることで、「近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め」られる単元を実践したいと考える。

III 実践の概要

(1) 育成を目指す言語能力

「現代文A」は、読む対象を近代以降の文章とし、「古典A」と対をなす科目として置いた選択科目である。共通必修科目「国語総合」の3領域1事項のうち、「C読むこと」の近代以降の文章の分野と、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕とを中心として、その内容を発展させている。

本実践では、近代以降の文章に表れている、古典や外国文化を享受して形成された我が国の言語文化の独自の性格やその価値を、近代以降の文章を教材とした指導を通して、生徒が理解することを目的とする。

さらに、「読むこと」の意欲を喚起させたり、文化に関する関心を深めさせたりすることで、現代をより豊かに生きていく自分のあるべき姿を見出させ、多面的にかつ広く深く考えさせて読ませることができるよう試みた。

(2) 対象生徒の実態

対象は本校中間年次と卒業年次の生徒（普通科 男子14名 女子13名 計27名）である。入学年次、「国語総合」（4単位）を履修している。現在、「現代文B」や「古典B」を選択せず、履修している生徒たちである。

(3) 単元名

評論に表れた、東西の昔話に表れた文化の違いを探ろう。

(4) 単元の目標

- 東西の昔話について、表現を味わったり、内容について理解を深めたりしようとする。
(関心・意欲・態度)
- 東西の昔話について、その表現の違いを通して、我が国の文化と外国の文化の特質について理解する。
(読む能力)
- 我が国の言語文化の特質を指摘することができる。
(知識・理解)

(5) 取り上げる言語活動と教材

① 言語活動

東西の昔話を分担して読み、考えたことや気付いたことを発表する。

② 教材（取り上げる評論・昔話）

- 『花女房』 河合 隼雄
- 『日本昔話』（「月見草の嫁」・「鶴の恩返し」）
- 『グリム童話』（「恋人ローランド」・「なでしこ」・「なぞなぞばなし」）

(6) 具体的な評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
文章を読んで、言語文化への興味・関心を広げようとしている。	東西の昔話の内容の違いを理解している。	文章を読んで、言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。

(7) 指導と評価の計画

次	具体的な評価規準と評価方法	学 習 活 動
1	【評価規準】 ・文章を読んで、東西の昔話の、女性と花との関係において、異なる点についての理解している。 (知識・理解) 【評価方法】 「記述の点検」	○河合隼雄の評論『花女房』を読み、次の点についてワークシートⅠに記入する。 1 どのような状況の下、どのような相違点があるか。 2 「日本の昔話の『美』のあり方」とは、どのようなものか。 3 日本の昔話の特徴とは、どのようなものか。
2	【評価規準】 ・東西の昔話の内容や表現を理解している。 (読む能力) 【評価方法】 「記述の確認」	○各グループで、日本昔話『月見草の嫁』『鶴の恩返し』、グリム童話『恋人ローランド』『なでしこ』『なぞなぞ』を読み、次の点についてワークシートⅡに記入する。 1 それぞれのあらすじは、どのようなものか。 2 それぞれの昔話の内容や特徴、表現の特色は

		どのようなものか。
3	【評価規準】 ・文章を読んで、言語文化への興味 ・関心を広げようとしている。 (関心・意欲・態度) 【評価方法】 「行動の確認」 「記述の分析」	○グループを解体し、各エキスパートから構成する新たなグループで意見を交流し、ワークシートⅢにまとめる。 1 内容や特徴を各エキスパートが、分かりやすく発表する。(発表の内容をまとめる。) 2 東西の昔話を読み比べて、それぞれの意見を班の中で、発表する。(発表の内容から自分の考えをまとめる。) ○各自まとめたワークシートⅢからいくつか抜粋し、近代の文章に表れた言語文化の特質について考える。

(8) 学習指導要領との関連

本事例の指導事項は、次のとおりである。

ウ 文章を読んで、言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。
「現代文A」の内容の(1)

この指導事項を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は次のとおりである。

イ 外国の文化との関係なども視野に入れて、文章の内容や表現の特色を調べ、発表したり論文にまとめたりすること。
「現代文A」の内容の(2)

(9) 言語活動の充実の工夫

○教材として様々な東西の昔話を取り上げる

本単元では、主体的に昔話に親しみ、筆者の論点に注目して、読み比べる内容や表現の特色を調べ、東西の昔話に表れた言葉からそれぞれの言語文化を探らせている。

そこで、第1次では、河合隼雄の評論『花女房』を読み、東西の昔話の女性と花との関係において、異なる点について理解させた。さらにその後、日本の昔話の「美」のあり方がどのようなもので、日本の昔話の特徴はどのようなものかを考えさせた。第2次では、生徒は第1次に引き続き、「美」をテーマとする昔話を調べる学習に取り組んだ。その際、女性と花との関係を書いた昔話を取り上げた。

○目標の実現に資する読む視点を示した「手引き」を作成する

この実践では、目標の実現や言語活動に資するため、第1, 2次用に、「手引き」(ワークシートⅠ・Ⅱ)を作成している。この手引きでは「美」をテーマにした昔話を読み比べるために、以下の視点を設定した。

- 1 どのような状況の下、どのような相違点があるか。
- 2 「日本の昔話の『美』のあり方」とは、どのようなものか。
- 3 日本の昔話の特徴とは、どのようなものか。

読む視点を共通にしたのは、生徒の実態に応じたものであり、同じ視点から読むすることによって、それぞれの昔話の内容や表現の特色を深く理解するためである。また、第1次で取り上げた評論と第2次で取り上げた昔話との共通点と相違点も整理させた。第3次では、以下の点について考えをまとめさせた。

1 東西それぞれの昔話には、内容や表現においてどのような特色が見られたか。

2 近代の文章に表れた言語文化の特質は、どのようなものか。

○昔話の内容や表現の特色を調べる際、東西の言語文化の特質に注目する

この実践では、第1次の教材として、日本の昔話の背後に「死＝滅び」を見ることによって、美が完全なものとなるという考え方の評論を取り上げている。また、第2次で女性と花との関係が表れた昔話を取り上げて、その昔話の根底にある、言語文化の特質を探らせた。

グリム童話では、もともと女性だったのが魔法の力によって、花に変身していて、それがもとの女性の姿に戻る。花を折り取るという「死」のテーマは、人間としての再生につながってゆくためのものであり、「死」そのものの重みはない。

それに対して、日本の昔話では、もともとは花の精だったのが女性になる。変身に関して魔法その他の説明が全くない。「死」そのもの、それに伴う悲しみが大きい要素となる。

そこから生徒は、日本の「美」のあり方について、言葉は不十分でも、はかなさや無常観といった、普遍の原理を導き出していた。ハッピーエンドで終わらないことの美しさと、夢の成就こそ、幸福であるとする西洋文化との違いを実感していた。

○発表を通して考えを深める

この実践では、各グループが調べたことを発表し合う活動を通して、生徒の考えを深めさせている。例えば、思いは同じでも時代によってなぜ表現が異なるのか、あるいは、思いが変化してから表現もそれに伴って変化しているのかなどについて、自分なりの疑問をもち、仮説を立て、グループで意見を交換したり、さらに調べたりするなかでそれぞれの仮説を検証し、考えを深めていくことができた。

同時に、歌に表れた言葉から、作者の伝えたい思いに気付き、歌を味わう能力を伸ばすとともに、表現を大切にしながら文章を読む姿勢を身に付けていくことになった。

(10) 評価の具体的な工夫

① 単元の展開において、評価の観点をどう位置付けているか

本単元で取り上げた指導事項は、前半が「読む能力」、後半が「知識・理解」の内容となっている。そこで、語句の用いられ方についての理解を深めることで、文章特有の表現を味わわせるという指導過程を取り、第1次で「知識・理解」、第2次で「知識・理解」「読む能力」の評価を行っている。その指導と評価も踏まえ、第3次で「関心・意欲・態度」を評価した。

② 各観点の評価を、どのような評価方法で行うのか

「知識・理解」

「知識・理解」の評価は、第1次でワークシートの「記述の点検」、第2次で「記述の確認」をすることで行った。

「読む能力」

「読む能力」の評価は、第2次でワークシートの「記述の確認」をすることで行った。第2次では「知識・理解」と「読む能力」の2観点の評価を行ったが、もともと一つの指導事項に基づいたものであり、評価材料も同一であることから、負担感はなかった。「努力を要する」状況（C）と判断した生徒には、第1次では、言葉の工夫について具体的な例を示したり、第2次では、表現の特色の共通点や相違点の一つを例示したりするなど、個に応じた指導を行った。

「関心・意欲・態度」

第3次では、グループ間の交流を通して学習を振り返り、読みや理解を深めているその状況を「行動の確認」と「記述の分析」で評価した。

資料 【手引きⅠ（ワークシートⅠ）】

（3） 昔話に表れた言語文化の特質を探ろう。			（2） 東西の昔話の相違点について考えよう。			（1） 東西の昔話の共通点について考えよう。		
（3） 日本の昔話の特徴とはどのようなものか、考えてみよう。			（2） 日本の昔話の「美」のあり方とはどのようなものか、考えてみよう。			（1） 東西の昔話では、どのような状況の下、どのような相違点があるか、考えよう。		

（読む手引き）
評論を読み、筆者の意図を探ろう。
河合隼雄の評論『花女房』について、次のことを考えてみよう。

評論を読み、筆者の意図を探ろう。 (読む手引き) 河合隼雄の評論『花女房』について、次のことを考えてみよう。 (1) 東西の昔話では、どのような状況の下、どのような相違点があるか、考えよう。	a 日本の昔話は、何かが誰かと結ばれるために、自分の力(のようなもの)で変身するが、西洋の昔話は、身を守ったり、悪人をやっつけるために魔法や杖の力で変身する。 b 日本の昔話は、初めは幸せな場面が多いが、終末に近づくとき重い場面になる。それに対して、グリム童話は、最初はピンチだけど、終わりはハッピーエンドになる。 c 日本は、幸せと不幸が両極端で、しばらく幸せに暮らした後に、一気に不幸が訪れる。 d 自分の実の子だけかわいがり、西洋では再生を大切にしている。日本の昔話はそうでない。 e 日本では死を大切に、死にたい人は死にたいけれど、グリム童話は人間の汚い部分が浮き彫りで、怖い。 f 日本の昔話は、きれいでなんでもかきかき、グリム童話は人間の汚い部分が浮き彫りで、怖い。	(2) 日本の昔話の「美」のあり方とはどのようなものか、考えてみよう。 a 生きるものの先にある「死」を意識した「美」 b ヒロインが毎回美女。死に方(もしくは去り方)も美しい。夫に尽くす女性は美しいという考え方(?) c 最後に別れや悲しみなどがあることを意識させるもの。 e はかなく、繊細なものが美しい。	(3) 日本の昔話の特徴とはどのようなものか、考えてみよう。 a 方言も多く使われる。 b 物語がスムーズに頭に入る。童話のようにに複雑ではなく、魔女・王様などの特殊な人がいない。平凡な暮らしが舞台。 c 貧しい家庭(もしくは一人)。ヒロインや、その話の重要人物の登場で、裕福になるが、あるきっかけでまた貧しくなる。(ならないパターンや、貧しい方が、幸せだね、というパターンも)表現方法がわかりやすくなっている。 d 必ずしもハッピーエンドではなく、悲劇的な結末が、命をより一層かけがえのないものとして際立たせるもの。 e 女性が死んだり、居なくなること、美が完成する。 f 話の構成がシンプルだ。 g 日本の昔話はきれいだし、設定も分かりやすく、読みやすい。 h 日本特有の「美」があると感じる。
---	---	--	--

（東西の昔話を読み、各グループで考えよう） （読む手引き） （東西の昔話） （について、次のことを考えてみよう。） （1） あらすじは、どのようなものか、考えよう。	（2） 内容や特徴、表現の特色はどのようなものか、を考えよう。	（3） 言語文化として聞いた時に、もった印象を考えよう。
--	--	---

(2) 東西の昔話を読み、各グループで考えよう （読む手引き） 東西の昔話（ ）について、次のことを考えてみよう。 内容や特徴、表現の特色はどのようなものか、を考えよう。	(3) 言語文化として聞いた時に、もった印象を考えよう。	(2) 東西の昔話を読み、各グループで考えよう （読む手引き） 東西の昔話（ ）について、次のことを考えてみよう。 内容や特徴、表現の特色はどのようなものか、を考えよう。
e d c b a 助けた動物が恩返しにくる。【日本】 約束を破るつもりはなくても、相手のことを思っ 魔女やその実の娘のような作中での悪役が【グ 人が殺されるときは表現の仕方が細かい。【グ 登場人物が死んでも驚くことすらなく、全体的に淡々と進んでいく。【グ	e d c b a 魔物が人間に化身する。 登場人物の性格が優れているが、最後には別れがある。 文中の所々に話しの言葉があり、読み手に語りかけるような文章だと思 グリム童話では、人間が動物や植物に化身するが、日本昔話では、動物や植物が 人間になる。 日本昔話は、明確な悪意をもって行動する人が少ない、と思った。 命を助けていたお札に恩返しにくるところが、日本らしいと思った。お互 いを感じる。【グ	e d c b a 魔物が人間に化身する。 登場人物の性格が優れているが、最後には別れがある。 文中の所々に話しの言葉があり、読み手に語りかけるような文章だと思 グリム童話では、人間が動物や植物に化身するが、日本昔話では、動物や植物が 人間になる。 日本昔話は、明確な悪意をもって行動する人が少ない、と思った。 命を助けていたお札に恩返しにくるところが、日本らしいと思った。お互 いを感じる。【グ

（東西の昔話の発表を聞き、まとめてみよう） （まとめる手引き）	(1) 東西の昔話には、内容や表現においてどのような特色が見られたか、まとめよう。	東・ 西・	(2) 日本の言語文化の特質について、まとめよう。	
--	--	------------------	----------------------------------	--

（東西の昔話の発表を聞き、まとめてみよう）
（まとめる手引き）

(2) 日本の言語文化の特質について、まとめよう。

h g b a
びなる。人間と動物の境界が曖昧で、日本人の信仰の仕方との繋がりを感ずる。
文章が詰まっておおよその季節が読み取れる。そこからこの地方の昔話か、予測できる。
地方固有の方言があり、そこからこの地方の昔話か、予測できる。

f e d c
日本昔話は、よいことをするとよいことが返ってくるという、読んでいて子どもの学
びが詰まっておおよその季節が読み取れる。そこからこの地方の昔話か、予測できる。

b a
今、言葉遊び（全然関係のない言葉を並べて意味のある言葉にしたり、意味を隠した
りする）が上手い。
死が美を完全にすると考えられている。すべてのものによいところ、悪いところ
を見つけている。
善悪があまりはつきりとしていない。すべてのものでよいところ、悪いところ
を見つけている。